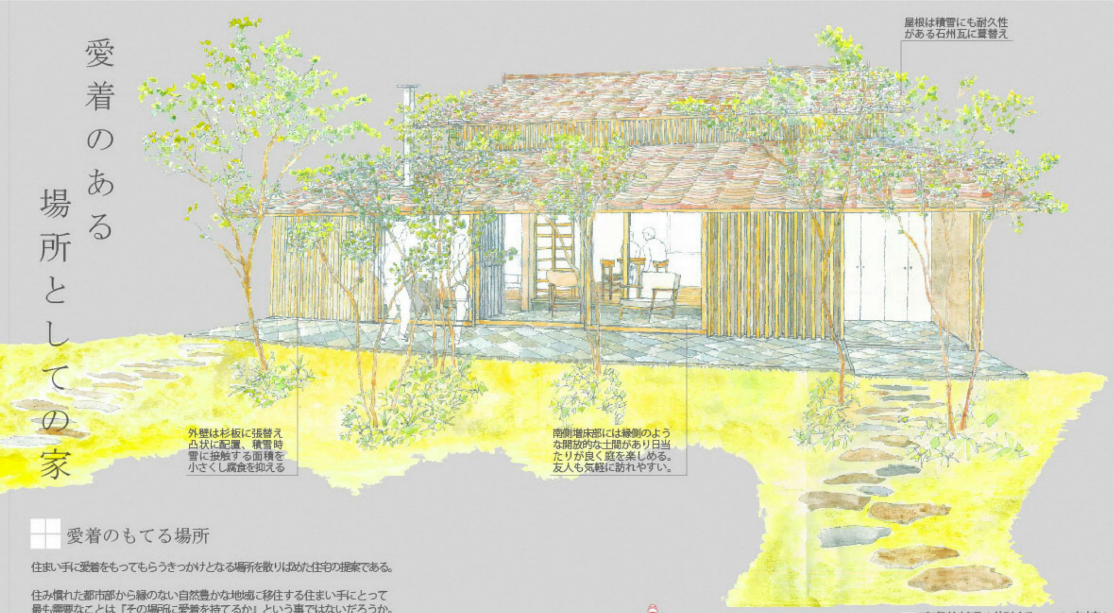
愛着のある場所としての家



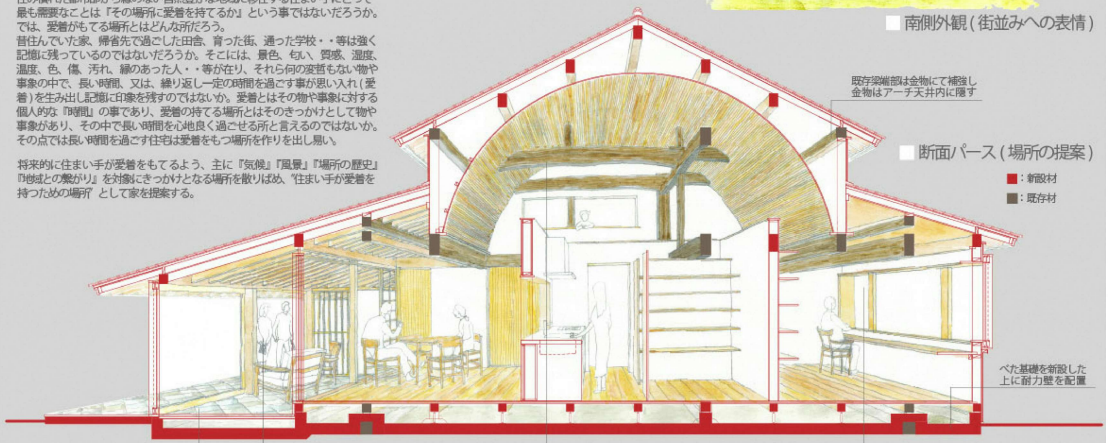
南側外観（街並みへの表情）

愛着のもてる場所

住まい手に愛着をもってもらうきっかけとなる場所を散りばめた住宅の提案である。

住み慣れた都市部から縁のない自然豊かな地域に移住する住まい手にとって最も需要なことは『その場所に愛着を持てるか』という事ではないだろうか。
では、愛着がもてる場所とはどんな所だろう。
昔住んでいた家、帰省先で過ごした田舎、育った街、通った学校・・等は強く記憶に残っているのではないだろうか。そこには、景色、匂い、質感、湿度、温度、色、傷、汚れ、縁のあった人・・等が在り、それら何の変哲もない物や事象の中で、長い時間、又は、繰り返し一定の時間を過ごす事が思い入れ（愛着）を生み出し記憶に印象を残すのではないか。愛着とはその物や事象に対する個人的な『時間』の事であり、愛着の持てる場所とはそのきっかけとして物や事象があり、その中で長い時間を心地良く過ごせる所と言えるのではないか。
その点では長い時間を過ごす住宅は愛着をもつ場所を作りを出し易い。

将来的に住まい手が愛着をもてるよう、主に『気候』『風景』『場所の歴史』『地域との繋がり』を対象にきっかけとなる場所を散りばめ、"住まい手が愛着を持つための場所" として家を提案する。



断面パース（場所の提案）

愛着 沸く 気候

南側は深い庇下の土間とし夏は窓を開け放して涼しく冬は薪ストーブで土間床に蓄熱する事で暖かくすごす。気候を楽しむことが出来る。

愛着 沸く 地域の繋がり

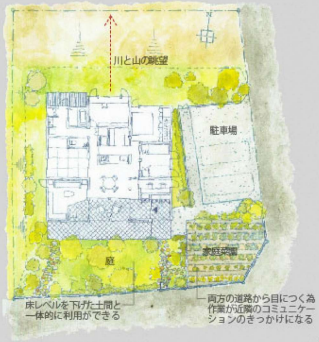
南側は庭に対して開放的な造り。縁側のような土間は近隣の知り合いも気軽に訪れることができる。

愛着 沸く 場所の歴史

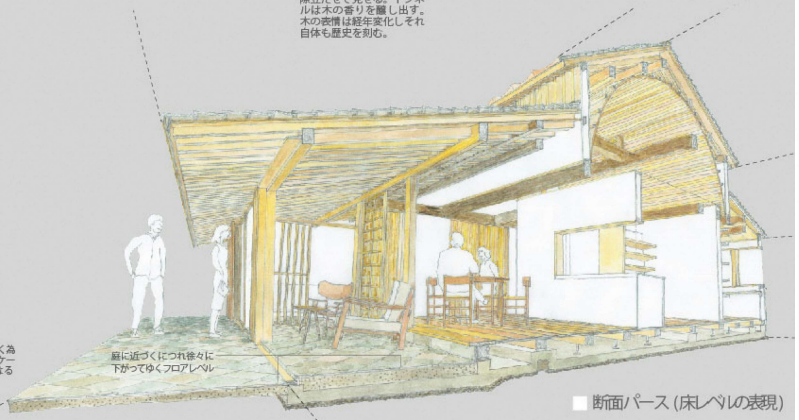
東西に貫くトンネル状の小幅杉板天井はその中を横断する古材梁と新旧の木材の対比を生み出し家の歴史を際立たせて見せる。トンネルは木の香りを醸し出す。木の表情は経年変化しそれ自体も歴史を刻む。

愛着 沸く 風景

仕事部屋には北側の川と山並みを望むパノラマ開口。刻々と移り行く景色を映し出しし心地よい時間を作り出す。



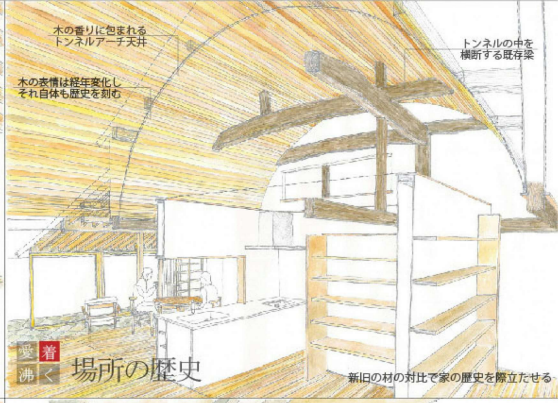
配置図 1／250



断面パース（床レベルの表現）

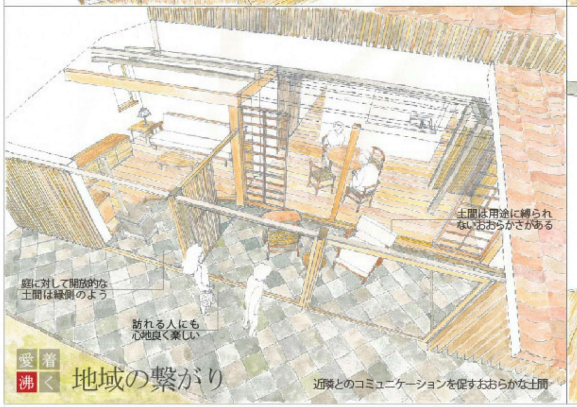
愛着 沸く 気候

厳しい気候も楽しめる設え



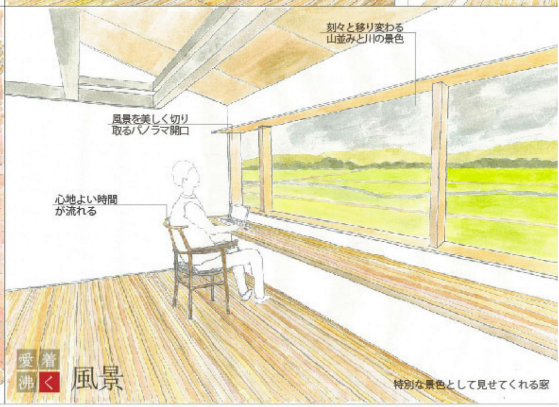
愛着 沸く 場所の歴史

新旧の材の対比で家の歴史を際立たせる



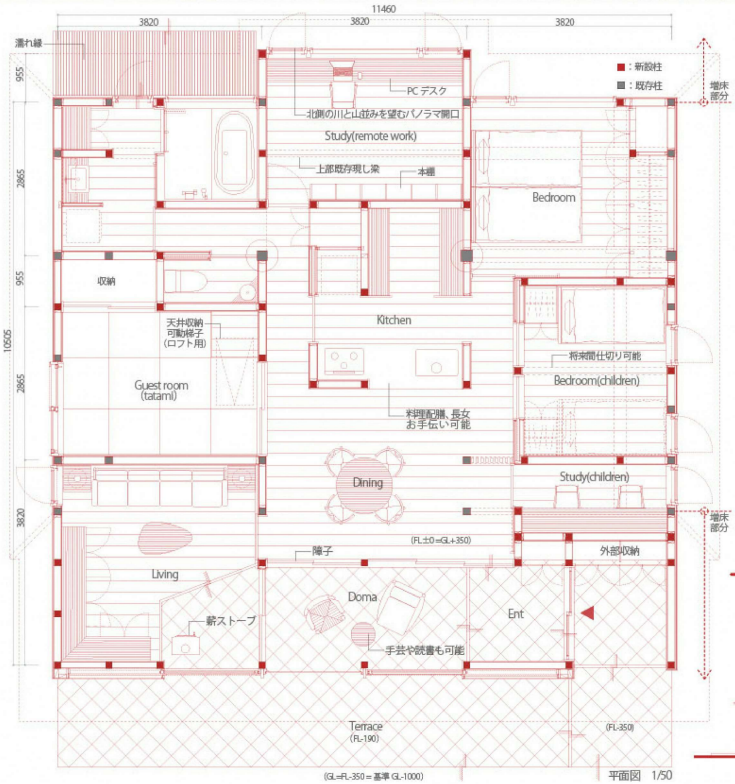
愛着 沸く 地域の繋がり

近隣とのコミュニケーションを促すおおらかな土間

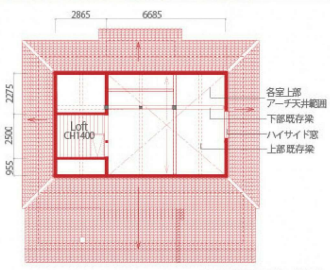


愛着 沸く 風景

特別な景色として見せてくれる窓



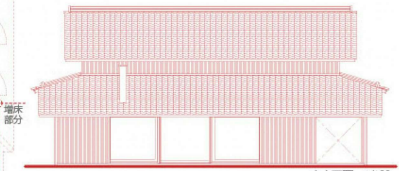
平面図 1/50



小屋裏収納平面図 1/150

（規模・構造）

階数	地上1階	敷地面積	587.958 ㎡
建築面積	124.03 ㎡	改修前後床面積	
延床面積	127.54 ㎡	1階 改修前	87.70 ㎡
	内、ロフト 7.16 ㎡	改修後	120.38 ㎡
容積対象床面積	120.38 ㎡	ロフト 改修前	7.29 ㎡
構造	木造	改修後	7.16 ㎡
基礎	コンクリートべた基礎	増床面積	32.68 ㎡



南立面図 1/100

東立面図 1/100